



井出さとる

くらしの相談
担当者
レポート

討議資料



発行日:2022年4月22日(No.030) 発行所:トヨタ自動車労働組合 発行人:鬼頭 圭介 編集人:井出 悟 印刷所:トヨタエンタプライズ共栄カバニー

「政治活動」＝誰でもできる、社会をより良くする活動です

2019年11月、東京・板橋区の小学生たちが、「思いっきりサッカーがしたい」という強い思いをカタチにするために区議会に陳情を行いました。300日にもわたり子どもたちが活動し、それを大人が支えてきたとのこと。「主権者」一度は皆さまも聞いたことがあると思います。さとも裾野市内の高校で、高校生が模擬請願書を作成する授

業に毎年参加し、今回紹介した小学生の活動も授業の中で紹介されていました。(この2年は新型コロナの影響で中止となっています。)

また、小学校のクラスの定員数を見直す「静岡式35人学級の実現」に向けて、長い間、連合静岡でも署名活動が続けられた結果、静岡県内の小学校全学年の35人学級化が全国に先立って実現され、国の制度改正が後追いする状況となりました。このような社会の問題・課題に対して声を出し、意思表示をして社会を変えていく活動そのものが「政策制度課題への取り組み」ではないでしょうか？

例えば、①燃料課税の二重課税や、車体課税などの偏重な課税、②国の一般会計へ貸し出した自賠責保険の運用益の未返還、③交通過疎地では欠かすことができない自動車の運転に必要な任意保険料の所得控除などなど。クルマを取り巻く課題は山積しています。

#クルマを走らせる550万人が社会を変えるためにできること。クルマを走らせる550万人がチャレンジすれば、社会が変わっていく。その様な決意を持って、「声出し活動」から、「声を広げていく活動」へ転換していくことが、今求められていると、さとはは考えています。

NHK 首都圏ナビ

僕らがちんじょうしたわけ

2019年12月17日

11月、東京・板橋区の小学生たちが、区議会に異例の陳情を行いました。子どもたちを動かしたのは、「思いっきりサッカーがしたい」という強い思いです。その300日にわたる戦いの日々を、取材をもとに再現しました。

引用) <https://www.nhk.or.jp/shutoken/wr/20191217.html>

報告① YouTube チャンネル「さとの部屋」を開設しました

Zoomを活用したオンラインくらしの相談トーク「さとの部屋」も、これまで5回開催しました。事前に質問をお受けし、放送中もチャットでリアルタイムに質問を受けてお答えしています。皆さまに伝えたいことがたくさんあって、あっという間の1時間となっています。

先日はTMEJ 労組の浅田もとゆき議員と対談形式で実施し、裾野市のまちづくりについて議論を交わしました。共にモノづくりに関わってきた二人ですから、問題・課題解



決への考え方やアプローチが似ており、モビリティの仲間を実感しています。今後も連携して取り組んでいきたいと思っています。

また、「さとのスーツでやってみた」という(少し)遊び心を取り入れた動画もアップしていますので、ご覧いただければ幸いです。



※ KABANET のアクセス) ID:KABA PW:2019

報告② 村田はるかぜ新市長が誕生、副市長に及川涼介氏を選任しました

1月23日に任期満了に伴う裾野市長選挙行われ、村田はるかぜ市長が就任されました。2月定例会は新市長が初めて色々な考えを述べるとあって、本会議には連日、傍聴の方がお見えになっており、関心の高さが伺えました。

今回は一般質問をする議員も多かったのですが、多くの質問に対して村田市長が直接、ご自分の思いを乗せて答弁されていました。自治体のトップとして、ビジョンを語り、思いを伝えようとする姿勢は、村田市長の変革に向けた覚悟を感じました。

また、及川涼介氏の副市長器用に対しても、ウーブン・シティと連動し、デジタル技術を活用したまちづくりや行政改革を加速するためには、及川氏の総務省でのマイナンバー制度の運用や関連法令の整備に携わった官僚経験と、自治体のデジタルトランスフォーメーション（DX）を支援する企業での、全国各地の市町で行政手続きデジタル化プロジェクトを推進してきた経験や知見が、裾野市の変革には必要だと説明され、台湾のデジタル担当大臣オードリー・タン氏が頭をよぎりました。



議会傍聴に来られた市民のアンケートも「市長の答弁が分かり易く、熱意を感じた」との声が複数の声があり、今後の裾野市が「突き抜け」ていくのではないかと期待を感じさせる2月定例会だったのではないのでしょうか。

報告③ 8年間の行財政構造改革の遅れによる、令和4年度の事業影響（抜粋）

予算審査によって、令和4年度に影響が出ている事業があります。村田市長は、「就任後1週間で予算を組み替える事が不可能だったこと、市民生活に影響を与えないためにも小規模変更にと留めた。今後補正予算で対応する。」との考えを示されました。



①富士山すその大花火大会、富士山すその阿波おどり大会への補助金停止

一般質問で事業のあり方を見直すとの考えが示されました。村田市長は「市民が大切にしてきた伝統や文化は代えられない価値がある」とし、関係団体との意見交換を行い、見直しも含めた検討をすると明言しました。

②ヘルシーパークの再会に向けた運営者の再公募

裾野市振興公社の指定取り消しにより、4月から再公募の審査に入ります。手続き期間がにより10月再開を目指していますが、議会審査でも、1日も早い再開が必要と指摘しています。



③狭い踏切の改修、市道平松深良線着工の先送り

大型公共事業の見直しとして、調査や用地交渉の進んでいた事業を抑制するために予算

化が見送られています。2月定例会でも多くの議員から進捗に対する指摘が相次ぎました。

④裾野駅西土地区画整理事業の事業費抑制

2018年当時、2029年までに完了させる計画を示し、そのために10億円/年の事業費を計画していました。

2022年の予算はおよそ計画の半分になりましたので、事業期間が2倍になる計算になります。2月定例会で指摘が相次ぎ、村田市長も賑わい創出を含め手法の再検討が必要との認識を示しています。



市長の交代によって、事業の取り組み姿勢が大きく転換することになる可能性がありそうです。村田市長の考えがより示される6月定例会以降の情勢に注視していきます。

